

グレートジャーニーの関野先生、ハンターを追い続ける池谷先生が語ります！

コレクション展示「ハンターのみた地球」関連イベント

第539回友の会講演会

人類の原点はハンターにあり！

関野 吉晴(探検家) × 池谷 和信(国立民族学博物館教授)

日時：2023年8月5日(土)

13:30~15:00(開場13:00)

会場：国立民族学博物館 第5セミナー室(定員90名)

費用：500円(友の会会員は無料)

※事前申込先着順(友の会会員は申込不要。当日会員証提示)。
※オンライン配信はございません。

約700万年の人類の歴史のうち、狩猟採集生活の時代が99.8パーセントを占めるといわれています。この時代に、共感性に富んだ社会性を育んだ人類は、地球全体へと拡散することに成功しました。その後、農耕や近代文明を発達させてきましたが、人間性の基盤をつくった狩猟採集の文化はいまも世界中にみられます。人類拡散の旅路を逆ルートからたどった探検家と、世界各地の狩猟採集社会の調査を続ける研究者が語り合い、ハンターをおして人類の普遍性や未来をさぐります。



カラハリ砂漠に暮らすサン人による狩猟場面
(撮影・池谷和信、1987年)



関野 吉晴

探検家、医師。武蔵野美術大学名誉教授。専門は文化人類学。1993年より10年もの歳月をかけて、人類拡散の旅(グレートジャーニー)を逆ルートからたどる旅を実施。その様子はテレビ番組としても放映された。2013年には、関連企画となる国立科学博物館の特別展「グレートジャーニー・人類の旅〜この星に、生き残るための物語。〜」の監修に携わる。主な著作に『グレートジャーニー・人類5万キロの旅』全15巻(小峰書店)など。



池谷 和信

国立民族学博物館教授。専門は環境人類学・人文地理学。アフリカと日本を中心に、また比較文化の試みにより他地域もフィールドとしながら、狩猟採集民文化、生き物文化、地球環境史の研究など、自然と人との相互関係について調査を続けている。主な著作に『ビーズ——つなぐ・かざる・みせる』(国立民族学博物館)、『人間にとってスイカとは何か——カラハリ狩猟民と考える』(臨川書店)、『地球環境史からの問い——ヒトと自然の共生とは何か』(岩波書店)など。

催し詳細・受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/539tomo/>

※みんなく友の会ホームページ内



お問い合わせ

国立民族学博物館友の会(公益財団法人千里文化財団内)

TEL 06-6877-8893(平日9:00~17:00) / e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

HP https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/